

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日

平成 30年 11月 19日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470101654		
法人名	有限会社かざぐるま		
事業所名	グループホームはるかぜ		
所在地	広島市安佐北区亀山南二丁目8-20		
自己評価作成日	平成30年9月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=3470101654-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成30年11月8日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

自治会に入っており、季節の地域行事に積極的に参加させて頂いています。ご近所の方々にも温かく声をかけて頂き、利用者の方々の様子を気に掛けて頂いています。地域と共に歩んでいるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

家庭的な環境の中で利用者が生き生きと自由に暮らす事ができるように支援している。利用者は日中はリビングの好きな場所で新聞を読んだり、おしゃべりしたり自由に過ごしている。入浴も好きな時間に毎日でも入ることができる。職員の見守りのもと玄関の出入りは自由に敷地内を散歩する人もいる。利用者が楽しみにしている食事は旬の食材が毎食手作りで提供されている。時々ファミレスで外食したり、喫茶店でモーニングを楽しむこともある。排泄に関しても施設に入って布パンツに改善された利用者も多く、下剤を使用せず食事や運動で便秘に対応している。誤嚥や事故にすぐ気づくよう食事の際はTVを消して職員と一緒に楽しい食事時間を過ごしている。日常のケアや誘導の際には尊厳を大切に職員は行動の都度丁寧な言葉かけをしている。地域の自治会とも良好な関係を築いており、利用者も地域の一員として共生している。

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域に密着していることの利点を理解した上で、それを運営規定にも掲げている。また管理者は特にそれを理解し、地域との協働作業への参加を職員と共に行っている。	一人ひとりの意志や能力、人格や人生が尊重され、生き生きした暮らしを提供することを理念・経営方針としている。管理者、職員は理念方針を具現化するために地域社会と常に協力し実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の季節行事への参加をしたり、回覧板を回してもらい自治会などの情報を共有している。また、施設周辺を散歩しているときは、近所の方々に声をかけたり、かけられたりしながら近所づきあいをしている。	地域支援と連携などで自治会と共生の協定を結んでいる。事業所も義務を果たすことを条件に約45世帯の中の一世代となり、自治会の行事に参加したり、組長を務めたり地域の中に発信貢献している。地域の人々の訪問や差し入れもあり、利用者も様々な人との触れ合いでいきいき暮らせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地元の中学生の職場体験を受け入れたり、認知症サポーター養成講座などに参加。また月に一回の認知症カフェにも出かけ地域の方と交流している。地域の傾聴ボランティアを受け入れている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の中で行事の報告、施設内であった事故やその他の報告をして、それについて話し合う時間を設けている。また、取組み事項については次回の会議で結果などを報告している。	事故や誤薬の報告に関して会議の参加者から異なる視点の意見や提案、改善点が出されることが多く参考になっている。夜間外出の対応としては昼間の散歩を増やすなど、車椅子のけがにはカバーや移乗の仕方を工夫するなどの意見があり、参考にしてケアの向上に繋げている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議には毎回参加いただいている。その中でアドバイスをいただいたり、市町からの連絡があれば報告してもらっている。	地域包括センターの支援で亀山地域グループホームの職員間の交流会が開催され、他事業所のケアの取り組みなど意見交換やインフルエンザなどの情報交換も行われ、地域の連携とともによりよい関係性が構築されている。	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設内でも研修を行い、何が身体拘束になり、なぜ適正化が必要なのかを勉強している。また今年度より、運営推進会議の中で身体拘束適正化の為に委員会を実施して話し合っている。	玄関は施錠されず自由に出入りできるようになっている。椅子を前に詰めるなど身体拘束の事例があった場合はすぐ注意しあい、勉強会を行い、身体拘束をしないケアについて改善点・工夫点を話し合っている。職員は少しの音や行動にも注意を払いながら、拘束のない自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員には何が虐待にあたるのかを内外部の研修に参加し勉強する機会を設けている。そして気づかないうちに虐待になっていないかを職員同士で注意するように促したり、管理者は常に見過ごさないように注意して、利用者の様子に気を配っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、後見人制度を利用している利用者が二名入居されているが、制度への職員の理解はできていない。今後は学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書を家族の前で読みあげ、その都度質問に答えて理解していただけるように説明している。その時に解約や改定時の進め方も説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に家族への参加をお願いし、その時に報告、意見をいただいている。また改定や変更などがあった時はその都度報告している。	外部から施設への侵入事件の報道を機に、玄関に防犯カメラ設置の要望を受け、設置に繋げている。運営推進会議後、家族会が開催されているが、参加できない家族もおり、時々アンケートなどで家族の意見や要望を聞く機会を設けている。職員とは異なる家族の視点を運営に役立てている。	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に一回、全従業員会議を開きその時に運営について報告したり、意見交換をしている。また職員との面接時には要望などがないかを一人一人に聞いている。	新入社員に対する研修の必要性が職員から提案され、研修の実施という形で意見が反映されている。その結果、利用者のケアの質の向上やキャリアアップに繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員の労働条件を把握しており、勤怠についても毎月確認している。また、個々のキャリアアップに管理者と共に尽力している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は管理者が策定した年間研修を紹介し、職員に受講を進めている。また資格取得の為の研修に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	亀山中学区のグループホームの職員が集まる会議に参加できている。また、運営推進会議に近所の事業所に参加いただき交流できている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス開始前には面会し話を聞いている。またどうして入居に至ったかなどの不安な気持ちや訴えには時間をかけて話をしている。		

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス開始前より見学に来ていただき、困っていることや、入居してからの不安や要望を聞き、それがどのように対応できるかを説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居時に何の準備が必要か、またこちらができるサービスを説明し何を一番家族が必要としているかを見極める話し合いを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者が何ができるかを見極め、できないことは介護し、またこれまでできなかったことが少しでもできるよう方法を会議などで話し合い、実践している。その際には本人の意向を聞きながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用時の様子を小さなことも家族へ報告し、相談したり、何かの時にはご家族に施設に来ていただき協力をいただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	住んでいた地域の方の訪問があったり、遠方からの親戚などの訪問があり、それをいつでも受け入れている。	馴染みの人への手紙、電話の依頼、墓参り、理美容院訪問、かかりつけ医の同行など快く受け入れ、関係の継続を支援している。月一回の認知症カフェへ参加した折に、近くの自宅に寄り、妻と会うのを心待ちにしている利用者には、継続して寄り添う支援が行われている。	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	何かの作業をしていただくときは、利用者同士でやっていただいたり、仲の良い方や相性なども考えて関わられるように気を配っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院して退居してもお見舞いに行ったり、何かあれば連絡をしていただくように話している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	何を希望しているかを把握するために会議などで話し合ったり、日頃からのコミュニケーションを心掛けて、要望を言いやすい環境作りを心掛けている。また困難な場合は家族に聞いたり、生活歴などから判断している。	ちょっとした会話や生活歴から利用者の思いを推察し、把握できる関係性を日頃から培っている。月1回のプラン会議で利用者一人ひとりの思いが叶えられるよう検討し、支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にアセスメントやモニタリングをしたり、家族や本人から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日頃から観察を行い、行動を見守ったり、時には一緒に行動し把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>作成時には家族の要望、本人の要望を聞いている。またそれを実現するためには他職種の方への協力も組み入れている。また、プラン会議などで本人の状況に変化があればそれに即したプランに変更している。</p>	<p>ケアの実践に結びつきやすい生活プランという独自の介護計画表で、利用者の細かな援助内容と総合的な援助方針を記録している。利用者の要望や状況の変化により、現状に即したケアのあり方について、記録を参考に家族や必要な関係者が意見やアイデアを出し合って介護計画を作成している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日様子やその日のあった事を個別記録に残している。また、申し送りノートを活用し職員が情報を共有できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>時々のニーズに対し介護や福祉にとらわれず、いろいろな所へ出かけている。また、面会時間などへの制限をなくし、いつでも面会、外出、外泊ができるようにしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の方が外を歩いている利用者に声をかけていただいたり地域の、古民家カフェに参加している。また地域の行事の準備を職員と共に行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居前からのかかりつけ医が継続できるように支援している。また何かあれば家族にも相談し、すぐにかかりつけ医に相談している。</p>	<p>利用者の7～8人は家族の意向もあり、かかりつけ医に継続して受診できるよう支援している。皮膚科や歯科は訪問医療の利用、内科や認知症専門医の受診などは直接病院に同行して多くの医療機関と良好な関係を築きつつ、一人ひとりの医療に繋げて支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	日頃と違う変化があればすぐに報告している。また、経過観察を看護、介護で行い、必要時には受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、入院中も病院に訪問している。その時には主治医や看護師から様子を聞き退院に向けて備えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の契約時に施設の看取りや終末への対応を説明している。また、主治医の協力はもちろん、地域の病院や訪問看護ステーションと連携している。	家族、利用者の思いを重視し、最後まで利用者の尊厳を守る方針を職員で共有しながら対応している。家族に満足してもらえるよう医療面の幅広い協力体制や職員の看取り対応のレベルアップも図られている。看取りの反省や振り返りなど適宜行い経験を次の支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急対応について勉強をしたり研修をしている。しかし全ての職員ではない。現在は経験ある職員がカバーしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の自主防災訓練に職員、利用者と一緒に参加している。	年1～2回地域の防災訓練に参加し地域との協力体制を築いている。車椅子の利用者も含め小学校を避難場所にした自治会の避難訓練に参加している。靴を入れる袋があったら良かったなど訓練体験からの気づきを積み重ね、職員間で共有し、災害時に対応できるようにしている。夜間災害時の連携、避難体制、備蓄などの対応も行われている。	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に優しい言葉かけを心掛けてはいるが、時には不用意な言葉を使っていることがある。	愛称で呼ばない、赤ちゃん言葉を使用しない、当たり前のことのできたときに大きさに上手にできましたねと言わない、親しく話すことと馴れ馴れしく話すことの違いなど、常に尊厳に関わる言葉かけには職員間で注意しあって対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	介助時には本人が決定できるような言葉かけをするように言っている。どうしましょうか？や、やってみますかななどの疑問形で投げかけるように指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	朝食の時間はその方に合わせて決めていない。また入浴時間や就寝時間も一人一人に合わせるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着替えには洋服を選んでいただいたり、買い物の際は一緒に行き、選んでいただいている方もおられる。また外出時にはお化粧をされる方もおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	時には個人でメニューを変えたり、準備には手伝ってもらっている。野菜を切ったり、食器の片づけは無理強くないようにやっていただいている。	昆布で出しをとるなど日常的に丁寧な手作りの食事が提供されている。時にはサンマを外で焼いて匂を感じたり、お好み焼きの出前を取ったり、誕生日にファミレスでハンバーガー定食を食べに出かけたりと、目先や気分を変えながら楽しい食事となるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>一人一人に合わせて食事の盛り付けの量を変えている。また、ご家族から自宅での食事量を聞いて同じようにしている。体調不良時にはそれに合わせたメニューにしたり食事形態を変えている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後には口腔ケアを実施している。また必要な方には訪問歯科のサービスを入れている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>紙パンツから布パンツに戻された方が何名かおられる。便意や尿意のあるなしにかかわらずトイレに行っていただくようにしている。会議では情報を共有しどの方法がベストかを話し合っている。</p>	<p>便秘や下痢など食べ物との関係と利用者の通常の排泄状態を把握して排泄のリズムをつかみ、できるだけ布パンツ使用の方向にもっていくよう支援している。96歳で布パンツの利用者もいる。下剤も使用しない方針で食事に配慮し、体操やこまめなトイレ誘導を行い多角的に支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>繊維のある食材を使ったり、乳製品を毎日摂っている。また、散歩や運動ができるように働きかけている。下剤の使用方法を主治医や薬剤師と相談している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴日を決めずに、ほぼ毎日いつでも入浴できるようにしている。入浴時間もその日によって違う。ただ、夜間は人員の都合でできる方とそうでない方に分かれている。</p>	<p>毎日入浴したい利用者は毎日、寝る前に入浴したい利用者は夜、二人で入浴したい利用者は二人で入浴というように、自由に入浴を楽しむ支援をしている。冬はかゆみを防止するために、ゴシゴシ洗いすぎない配慮もしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	好きな時間に居室に戻り休んで いる。またその時には特別なこ とがない限りは声をかけずに見 守っている。		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	確実に内服できるように与薬チ ェックをしている。また居宅療 養管理指導を契約して薬剤師に よる管理をしている方がおられ る。		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	誕生日には個別に外出や外食 などの支援をしている。また家 事が得意な方には役割をもっ ていただいている。日によっては レクリエーションを実施し体 操や歌を唄ったり散歩をして いる。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援して いる。</p>	施設の敷地内は自由に入出入 りしている。家族と一緒に外出 したり行事や近所のイベントに も行っている。	日常的には敷地内は自由に行 動できるので自動販売機でジュ ースを買う楽しみもある。非 日常として、寄席、自治会の 祭り、認知症カフェ、公園で のお花見や盆踊り、お墓参り などの同行支援をしている。行 きたい人が行きたいときに普 段行けない場所に天気や体調 に合わせて外出できるよう支 援している。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	少ない金額を所持している方 がおられ、自販機でジュース を買ったりされている。通常は 家族の許可を得て買い物は立 て替えで購入している。		

自己評価	外部評価	項目(1Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>家族に電話の希望があればいつでも応じている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節ごとに掲示物を変えているが、華美になったり、幼稚にならないように気をつけている。テレビがつけっぱなしにならないように気をつけている。</p>	<p>利用者は日中の殆どを日当たりのよい清潔な居間で、近接する台所のスタッフと会話を楽しみ、ソファで新聞を読み、テーブルではお茶を飲みながらTVを観たり、観葉植物に水をあげたり、それぞれの居場所で快適に過ごされている。廊下にもベンチが置かれ、1人を楽しむ空間にも工夫がみられる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングにソファを置きいつでもくつろげるようにしている。また他の方と気が合わない方は別の席を用意して座っていただいたり、食事もその席で摂っていただいている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家庭から家具を持って来られている方がおられる。できるだけ使い慣れたものを置くようにしている。</p>	<p>思い入れの深いタンスやテーブルを使い続けたい利用者には、今までと同じ環境の暮らしが継続されるよう、気持ちを大切に支援している。ベッドも家で使い慣れたものにできるだけ近いものを選べるよう細やかな配慮がなされている。頻回の利用者には居室をトイレの近くにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室のドアに表札をつけたり、トイレや風呂の共用部所の入口に表記している・エレベーターを利用したり、できる方には階段を使ってもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理想を文書化し一人ひとりの職員が共有し業務に取り組めるようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に所属し行事、避難訓練など地域の取り組みに参加している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議で幅広く地域の方に参加していただき、また地域行事の参加を通じて開かれた支援の在り方を伝えることに努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二か月に一度、運営推進会議を開催。利用者の家族や地域の方々に参加していただいている。ケアの在り方についても具体的な議題を挙げて意見をいただいている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域包括支援センターの担当職員に運営推進会議に参加していただき、取り組みを伝え意見をいただくなどしている。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束についての研修を行っており、身体拘束をしないケア、利用者の自主性を尊重したケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する、内部外部の研修に積極的に実施、参加しており職員同士で不適切なケアが行われていないか注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	外部研修に参加できる機会を積極的に設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時、入所後も本人家族さまの納得が得られるよう時間をかけて話し合いや相談に応じている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	定期的に家族会を設け意見や要望を取り入れる機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年1回、社員総会を開催。定期的に機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の事情に基づいた勤務内容、時間柔軟に対応している。職員の勤務状況に応じて公平な評価、スキルアップの支援をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修、資格取得に積極的に支援している。(管理者研修、リーダー研修、介護福祉士資格取得等)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	運営推進会議に近所の他事業所の職員に参加していただき交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前の事前見学や入所決定後、本人から要望をお聞きし不安を訴えられた時は本人が納得されるまで何度でも説明の時間を設けている。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>ご家族さまの思い、不安なども伺いコミュニケーションを絶やさないう努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人ご家族の要望に沿ってケアプランの作成をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>利用者の意欲、能力に応じて家事など出来ることは協力していただき運営推進会議にも参加していただいている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族に協力していただけることは何か、利用者が望んでおられる家族さまとのつながりなど、家族会などで意見や話し合いができる機会を設けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>家族さまへ月に一回、生活の様子など手紙を送ったりと支援に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	散歩や行事など利用者同士の関係に配慮した参加の在り方、また他フロアの利用者との交流できるよう対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	本人家族の要望に沿って対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思表示の出来る方は本人から要望を聞く機会を設け困難な方はプラン会議などで支援の在り方を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居の際は生活歴やサービス状況などの情報を収集し、なるべくこれまでの習慣に沿った生活の在り方に基づいた支援をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活記録に詳細に記録するよう努め情報共有できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>月一回のプラン会議を開催している。主治医や本人、家族様の思いを反映できるように努めていきたい。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>生活記録を詳細に残すよう努め、プランの変更に役立てているが、もう少し敏感に変化をとらえた見直しが出来ればと思っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者、家族さまの状況の変化に応じた対応をできる限りしている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域で催される行事に積極的に参加し訪問理容、訪問歯科など利用。買い物なども、ご本人と一緒に支援するなど行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者それぞれの主治医に定期的に受診、往診の支援を行っている</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内看護師、医師会からの訪問看護師に日々の利用者の状態を報告し医療との連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時など、病院関係者と情報交換などに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族様、主治医と話し合い相談し、本人らしい生活が持続できるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に職場内研修を行っているが、実践力に不安な職員もいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	自治会の自主防災避難訓練に利用者とともに年1回参加している。また、施設内の消防訓練で避難方法の講習を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	利用者の意思を尊重した対応に心がけているが馴れ馴れしい態度を取る場面も見られるので、その都度注意しあっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者が気軽に要望を訴えられるよう普段から受容の姿勢に基づいた関わりをするように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の自由意思を尊重した対応、入浴やレクリエーションのお誘いも本人の気持ちに沿った言葉かけをしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理美容を利用。家族様にも協力していただき、ご本人の気に入っているスタイルをしていただけるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	利用者の意欲、能力に応じて野菜を切るなど食事作りの参加に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>自力摂取の困難な利用者には、食事のメニューや時間にとらわれず本人の状態、希望に応じた食事飲み物を提供している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に本人の状態に応じた口腔ケアを行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>利用者の排泄の状態を把握し、トイレ誘導している。またおむつの使用も一時的に必要な状況になっても本人の回復によってすぐ使用を中止し自立に向けた支援をしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘ぎみの利用者には水分を特にすすめるなどの対応をしている。ヨーグルト、バナナなど便秘に良い食物をメニューに加えたり散歩や体操などの運動に取り組んでいる。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>ほぼ毎日入浴担当の職員を配置し、希望者にはいつでも入っていただけるようにしている。(夜間を除く)</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>寝具などはできるだけ使い慣れたものを使用している。またリビングにも横になっただけの大型ソファを設置している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>医師から処方された薬の説明書を個人記録に付け用法などの内容の確認ができるようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>炊事、洗濯など、家事についてはそれぞれの意欲に沿って参加していただいている。また、一人で取り組めるレクリエーションなど本人が気に入った活動を支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>本人の希望に沿って買い物や地域の行事、散歩などの付き添いを行っている。また突然の外出の要望も制止はせず安全に配慮した見守りを行っている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>ご本人が希望される買い物など職員が付き添いなど支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族との電話連絡、友人、知人との手紙のやりとりなど本人の希望に沿って支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用者の作成した作品、行事などで撮った写真など飾っている。また季節に合わせた花なども置くようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用スペースに一人になれる空間はないが、ソファ、テーブル席など利用者が自然と自分の場所で過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家族と相談しできるだけ使い慣れた家具を設置するようにしているが使い慣れた家具が無理な場合もその都度話し合っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室のドアには手作りの表札、トイレもわかりやすい目印を設置している。		

V アウトカム項目(1Fユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	●	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	●	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	●	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	●	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	●	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	●	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	●	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	●	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(2Fユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームはるかぜ

作成日 2018年 12月11日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	34	緊急時に適切な対応ができない職員がいる。全員ができるようになる。	どのスタッフも緊急時に適切な対応ができるようにする。	研修への積極的な参加をしていく。	1年
2	36	利用者の方に対する不適切な声掛けや対応への認識が不十分	自己決定ができるよう声掛け。同じことを繰り返し話す利用者に冷静に対応できるようにする。	その都度スタッフ同士で注意をしい改善を図るようにする。	6ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。